

大丸遺跡 (その一)

— 大丸城と墓跡・経塚・板碑群 —

稲城市教育委員会
社会教育課

稲城市東長沼2111

☎0423-78-2111

発行 1996.10.25



大丸遺跡の全景（昭和61年撮影、東京都埋蔵文化財センター提供）

南武線の南多摩駅の南側約300mの丘陵上に大丸遺跡(多摩ニュータウンNo.513遺跡)がありました。多摩ニュータウンの造成工事に伴って、昭和55年から61年にかけて三次の発掘調査が行われ、数々の貴重な遺構・遺物が発見されました。遺跡は縄文時代から江戸時代に及ぶ大規模複合遺跡ですが、ここではその一として、大丸城と墓跡・経塚・板碑群についてご紹介します。

中世の大丸城跡

大丸遺跡のある場所は、古くから「城山」と言われていました。多摩川を望む丘陵の突端に位置し、大変眺望のきく場所に築造されました。調査によると、中心部に主郭を置く単郭式の構造で、主郭には東側に柵列跡、多摩川に面した西側に物見台と思われる建物跡(1間×2間)がありました。主郭の外周には空壕がめぐり、その外側は土塁状の腰曲輪(第2郭)となっていました。さらに第2郭の下段に第3郭があり、三方を溝によって区画して、平坦面中央に小建物あるいは櫓があったと考えられます。またこの他に空壕の中に土橋、東側斜面に盛土層、通路状遺構、溝、段切りなどの遺構が発見されました。出土遺物は、青磁、瀬戸、美濃系陶器、常滑系陶器、備前の播鉢、土師質土器などで15世紀前半に属するもの

時代	遺構
縄文時代	土坑……………15基 集石土坑……………1基
古墳時代	横穴墓……………2基
奈良時代	瓦窯跡……………15基 竪穴住居跡……………4軒
中世	経塚・墓跡……………3基 城郭(主郭、2・3郭空壕、溝) 板碑群……………3群 地下式横穴……………4基 炭窯……………1基 土坑……………2基 集石土坑……………1基
近世	ムロ……………6基 神社跡……………1棟 柱穴群……………1

大丸遺跡から発見された遺構

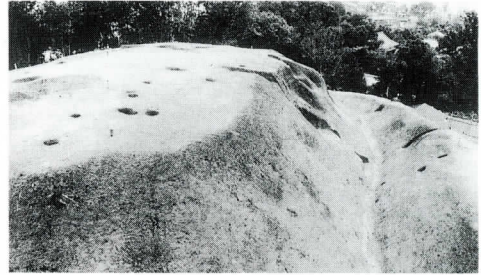
がほとんどです。以上のような遺構・遺物の状況から、大丸城は、15世紀初めから15世紀前半に使われた城で、多摩川の渡河地点・対岸を監視するのに適し、即戦闘のできる縄張りと防衛能力を持った城と考えられています。

墓跡と経塚

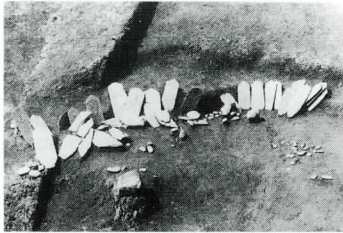
東側斜面からは集石を伴う、中世の土坑3基が発見されました。1・2号土坑は墓跡で蔵骨器（常滑系三筋壺と渥美壺）、北宋銭、刀子などが出土し、3号土坑の経塚からは経筒2口が出土しました。墓跡と経塚は12～13世紀代につくられたと考えられます。

板碑群

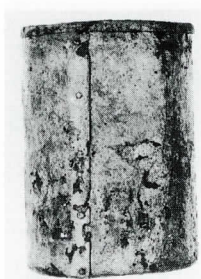
遺跡の東側斜面と南側斜面から三群の板碑群が発見されました。板碑の数は1号29基、2号38基、3号11基であり、14世紀～15世紀のものが中心でした。これらの板碑群は、それぞれ他所より移動して再配置したもので、大丸城の機能が終息した後の時期と考えられます。



主郭と空壕のようす



1号板碑群



経塚出土の経筒



墓跡出土の常滑系三筋壺と渥美壺

